

# 第6回人材育成フォーラム

## 女性社員戦力化の極意 川崎貴子氏が講演

第6回人材育成フォーラム（人材育成委員会主催）が2月15日、日遊協本部会議室で開かれ、会員企業の人事担当者（中堅層）として、

女性17人を含む32人（19社）が参加した。テーマは前々回（7月27日）、前回（11月16日）に引き続いて「女性が活躍できる組織づくり」。今回は「職場環境編」として、働く女性をサポートする人材

コンサルティングの(株)ジョヤンテ代表取締役、川崎貴子氏が「女性社員戦力化の極意」と題して講演した。

川崎氏は人材業界19年のキャリアで、1997年に(株)ジョヤンテを設立。人材コンサルティングの他、教育サービス、IPO支援サービスを提供している。著書に「上司の頭はまる見え」（サンマーク出



人事担当者たちを前に講演する川崎貴子氏

版がある。娘2人を持つワーキングマザーでもある。

同氏は、今の企業にとって女性の戦力化が必須な理由として、①ダイバーシティ（多様な人材を生かす経営戦略）の観点 ②サービスや商品の「女性化」——を挙げた。ダイバーシティに関しては、「優秀な人材を確保するための第一歩は、いかに女性を活用できるかということ。そこを通過してからその企業の戦略に合った採用を行うべき。言い換えれば、女性を活用できずして、文化が違う外国人社員はじめ優秀だが多様な個性の社員たちを活用はできない」と強調した。

また、「サービスや商品の『女性化』については、女性は生活者としてたくさんの知識と情報を持ってお

り、最近ヒットしたサービスや商品は女性の思いつきや意見から生まれたものが多いという。

### 特有の感性、考えを知れ

その上で、「女性社員には男性的女性社員と普通の女性社員の2種類があり、一般に会社の中では男性的女性社員は1割、普通の女性社員が9割を占める。男性的女性社員はやり手で会社に役立つが、結局ヘッドハンティングや独立でいなくなる。

会社にとって重要なのは残り9割の女性たち。彼女たちが内に秘めている思いを引き出して成長させ、花開かせる。それが女性社員の戦力化」として、男性上司では思いつかない女性社員特有の感性、考え方を紹介し、それらを上司が引き出すためのスキルなどを細かに講義した。

この後、ゲンダイエージェンシー(株)経営企画部の佐藤聖子氏が同社の「働くママ支援サイト」の概要を解説した。最後に5、6人ずつ6班に分かれ、自社の実例などを発表し合いながら女性社員戦力化についてフリーディスカッションを行った。

嶋崎所長の説明を受ける(右から)谷口支部長、篠原専務、(左端)佐藤事務局長



## 『みどりのきずな』植栽地視察 整地されていって好条件が現地

東北支部は2月15日、『みどりのきずな』再生プロジェクトで日遊協が植栽を担当する仙台市若林区荒浜地区を視察した。谷口久

徳支部長、本部から篠原弘志専務理事、伊東慎吾常務理事、佐藤千治事務局長が参加し、気仙浩一事務所長が案内した。

一行は、先に林野庁仙台森林管理署に立ち寄り、嶋崎省署長の話を聞いた。嶋崎所長は「植栽の申し込みが大変多く、担当していただく場所が小さくなり却って申し訳ありません。植える場所には除染された石の瓦礫を敷き詰めています。土も一杯出ているのですが、波に弱いので使えません。関心が高いことは大変喜んでおり、皆さんにも感謝します」と礼を述べた。

仙台駅から7・5km、車なら30分ぐらいで



きれいに整地された日遊協の植栽担当地を視察する一行

現地に着く。荒浜地区はまだやつと更地になった程度で、広く何もない感じだが、植栽地は2mほど高台になっており、しっかり整地された砂地になっている。すでに仙台市が担当した場所はきれいに整列して植えられていた。作業はスムーズに進む条件がそろっていると云っていい。日遊協の担当は0・17ヘクタールで、松を中心に苗を準備し、植えた後は一定期間下草刈りなどメンテナンスを続ける。

『みどりのきずな』再生プロジェクトは、東日本大震災の津波で被災した海岸防災林140kmを再生させる活動。



すでに仙台市が植えた場所。整然と植林されている



日遊協が担当する植栽地